



あいざわただひろ
—相澤忠洋さんを題材にした—

映画を制作します



岩宿遺跡を発見して日本史の常識を覆した相澤忠洋さんの功績をたたえ、相澤さんの人生を題材にした映画を制作します。相澤忠洋さん生誕100周年、岩宿遺跡発見80周年、みどり市市制施行20周年が重なる令和8年の完成を目指します。

問い合わせ先 地域創生課 ☎(46)9067



みどり市 HP

■ 相澤忠洋さんってどんな人？

大正15年（1926年）に生まれた相澤さんは、幼少期から考古学に興味を持ち、戦争から復員後、納豆の行商を行いながら赤城山麓で土器や石器を集めていました。

昭和21年（1946年）、相澤さんは笠懸地内の切り通しの赤土（関東ローム層）から小さな石器を発見しました。当時、関東ローム層の年代には日本に人類はいなかったと考えられていましたが、相澤さんは調査を続け、昭和24年（1949年）、明らかな人工物である槍先形尖頭器^{やりさきがたせんとうき}を発見し、その時代に人類がいたことを確信しました。しかしながら、独学で考古学を学んだ相澤さんの話は当時まともに取り合ってもらえず、岩宿遺跡の発見が正しいことが証明された後も、相澤さんの功績はなかなか認められませんでした。

それでも諦めずに発掘調査を続けた相澤さんは、その後もたくさんの遺跡を発見して脚光を浴び、岩宿遺跡の発見に関する書籍を出版するとたちまちベストセラーになり、ようやくその功績が世間に認められました。

■ 映画にする理由

相澤さんのドラマチックな人生を映画にすることで、岩宿遺跡発見の歴史的な意義を多くの人に認知してもらい、その功績を後世に引き継いでいきます。

また、スクリーンを通じてみどり市の美しい風景を日本全国の皆さんに見てもらうことで興味・関心を持ってもらい、映画を見た人に岩宿遺跡やみどり市に足を運んでもらいます。

■ ご協力をお願い

令和7年に予定している映画撮影では、市民の皆さんからエキストラを募集しますのでぜひご参加ください。また、映画の制作費の寄付を募りますのでご協力をお願いします（いずれも詳細は別途お知らせします）。

